

特集

学び合い“気付き”を促す授業をデザイン

無線LANなしでデータ共有

再生機能で“考え方”を後追い

三原市立本郷小学校(西田千加子校長・広島県)では「思考力・判断力・表現力の育成」ルーブリック評価を通して、を研究テーマとして、現在コミュニケーション能力の育成に力を入れている。市の視聴覚部会に属している同校の柏原永知教諭は、紙に書き込んだ内容をデータ化・共有できる授業支援ツール「オープンノート(OpenNote)」(大日本印刷)を授業に取り入れてコミュニケーション能力の育成に役立てている。市の視聴覚教育研究部会で公開された4年算数の授業を取材した。

柏原教諭は菓子箱を様々な角度から見せ、「見から、児童は「箱の全体が違つ」ことを示して今日の日目当て「箱の全体が分かる図の書き方を考えよう」を提示した。

「実際の形」と「目に見える形」の辺、頂点、



N環境がなくてもデジタル化できる。

再生して理解を深める

児童がデジタルペンで書いた「箱の全体が分かる図」は、電子黒板にリアルタイムに提示されていく。そこで柏原教諭は、何人かの「図」を選んで電子黒板に大きく提示。次に「どんな書き方をしたのか見てみよう」と、その児童の「書き方」を再生して見せた。ゆっくと再生すると、どの順番で面や辺を書いたか

「オープンノート」は、デジタルペンと紙のワークシートだけで1人ひとりの作業を、無線LAN環境がなくても教育用PCに集約され提示(上)できる

オープンノート用デジタルペンでワークシートに記入した内容(下)は無線LAN環境がなくても教育用PCに集約され提示(上)できる

広島県・三原市立本郷小学校

ているのが見え、「わかった」「そういう書き方もあるの」というつぶやきが聞こえてくる。児童がワークシートに書いた内容がすぐに教材として提示できる点はオープンノートのメリットだ。紙に書き込みデータを共有

紙に書き込みデータを共有

柏原教諭はデジタルペンの導入のきっかけについて「無線LANがなくても児童の書き込みをデジタル化できるので、購入しなくても活用できると考えた。児童はいつもと

10年先も役立つ力を育む活用を

西田千加子校長

西田校長は、ICT活用を積極的に後押ししている。



「10年先の社会を生きる子供たちに必要な力とは何かを考えた時、ICTを活用する力は欠かせない。比較する、分類するなどの6つのスキルを考えた方のツールを活用して思考力を育成したり、コミュニケーション能力を育成したりすることを目的とし、そのためにICT活用能力を育成していく必要がある。無線LANがなくてもデータを共有できるオープンノートの可能性に期待している。一昨年度、『H・T・K』(本郷・ためになる・講座)というミニ校内研修で、柏原教諭がICT活用講座を実施した後、タブレット端末を教員が個人で購入するなどの動きがあった。教員の個人持ち端末については、三原市の規定に基づき活用している」と語る。